

新大田市の誕生にあたって



大田市長

竹腰 創一

10月1日、旧大田市、温泉津町、仁摩町が合併し、新大田市が誕生いたしました。

ひとえに、住民の地域の発展を願う情熱と、先輩諸氏のたゆまぬご努力とご協力の賜物であります。

このたび、新大田市の初代市長として市政を担当することとなり、誠に光栄に存じますとともに、旧1市2町の融和と各地域がともに光り輝く新しいまちづくりに全身全霊を傾けてまいりたいと存じます。

さて、発足いたしました新大田市は、島根県の中央部に位置し、人口約4万1千人、面積約436

km²となり、国立公園三瓶山や46kmにも及ぶ海岸線、そして世界遺産登録を目指す石見銀山遺跡など、豊かな自然と歴史に育まれ、魅力ある地域資源を数多く有する地域であります。

新大田市は、合併協議を重ねる中で策定されました『新生「大田市」まちづくり推進計画』に基づき、「自然・歴史・ひとが光り輝くだれもが住みよい 県央の中核都市」を将来像として、石見銀山遺跡をシンボルに、地域の特性を活かしながら、まちづくりを推進してまいります。

石見銀山遺跡につきましては、先ごろ、政府において正式に世界

遺産推薦を行うことが決定され、平成19年度には世界遺産に登録されるものと住民ともども期待をいたしております。

世界遺産にふさわしい遺跡の保存と活用に努めるとともに、この機をチャンスと捉え、三瓶山、温泉津の温泉街、仁摩サンドミュージアムなど多彩な観光資源・施設を有機的に結び付けるなど、魅力ある観光地づくりを進めてまいります。

また、これからの地方の活性化には、都市との共生が大きな鍵であり、当市の特産品や伝統文化をアピールし、都市との積極的な交流を促進していきたいと考えております。

この大田市は、ここに住む市民だけのものではありません。大田市を離れていても、ここで生まれ育った皆さんの大切なふるさとでもあります。

このふるさと情報誌は、市出身者の皆さんへの情報提供はもちろ

んでありますが、当市の現状と未来について共に考え、共に語るための一助となれば幸いです。

どうか、当市のまちづくりについて大いにご意見をいただくとともに、引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。新大田市の誕生と「どがなかなか大田市です!!」の発行にあたってのごあいさつとさせていただきます。

